防除情報

平成２９年４月１８日
大阪府農政室推進課病害虫防除グループ

モモせん孔細菌病に注意！　発病枝除去と初期防除を徹底しましょう！

１　モモせん孔細菌病の発生状況等

◆昨年は、モモせん孔細菌病の発生が多く、多発ほ場も認められました。本病は前年の発病作物が伝染源となるため、昨年発生したほ場では今年も発生の恐れがあります。

◆今年４月１１日の巡回調査でも、葉の展開の早い若木で発生が確認されています。

◆４月１３日大阪管区気象台発表の１か月予報によると、向こう１か月は平均気温は高め、降水量は平年並みか多い見込みで、本病の発生しやすい条件のため注意が必要です。

◆ほ場をよく見回り、初期防除を徹底して発生を防ぎましょう。

葉の病斑（初期発生）

もも果実の被害

発病枝（春型枝病斑）

２　モモせん孔細菌病の生態等

◆葉や果実の気孔や傷口から侵入する。生育適温は25度程度。

◆風当たりの強い園地で発生が多くなる。

◆降雨が多いと発病しやすく、風を伴う雨を受けた後は特に多くなる。

３　モモせん孔細菌病の防除対策

◆伝染源となる発病枝は、樹に病斑を残さないよう健全芽数芽を含めて摘除し、ほ場外で処分する。

◆薬剤防除は多発してからでは効果が劣るため、早めの予防散布を心がける。降雨前後が効果的。

◆開花後は薬害が発生するので、ＩＣボルドー412は散布しない。

◆薬剤防除を行う際は収穫前日数に十分に注意する。特にアグリマイシン-100は収穫60日前までの使用のため、早生種では使用時期に注意が必要。

◆風当たりの強い園地では、防風ネット等を設置する。

表２　もも　せん孔細菌病の主な防除薬剤

薬剤名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
アグリマイシン-100	1,500倍	収穫60日前まで	２回以内
マイコシールド	1,500～3,000倍	収穫21日前まで	５回以内
スターナ水和剤	1,000倍	収穫７日前まで	３回以内
バリダシン液剤５	500倍	収穫７日前まで	４回以内
チオノックフロアブル	500倍	収穫７日前まで	５回以内

【防除、薬剤については以下も参照ください】

●Web版大阪府病害虫防除指針「もも」（右QRコード）
http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/body/1612/1612%20X%20momo.pdf

●農林水産消費安全技術センター（FAMIC）　農薬登録情報提供システム
http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm